

ちょっと ブレイク しませんか?



第30回 『キャッチミー・イフユーキャン』 (2002年 米国)

イソップ寓話集に「羊の皮を着た狼」と題する小話がある。

ある時狼が、たらふく餌にありつくためには、姿から入って本姓を変えるのがよいと考え、その皮を被ると、まんまと羊飼も欺いて、羊の群にまじって草を食んでいた。しかし夜になると、狼も羊小屋と一緒に押しこめられ、入り口には柵がはめられ、小屋まわりがすっかり固められた。羊飼は晩飯にしたいと思い、包丁で狼を殺した。このように、借り物の衣装でふるまう者は命を失うことがよくあるし、それが大惨事の遠因にもなるのだ。

今回紹介する『キャッチミー・イフユーキャン』（2002年米国）は、実話に基づく作品だ。フランク（ディカプリオ）は父の事業の失敗と両親の離婚で落胆し家出。街中で衆目を浴びる操縦士（パイロット）を見かける。彼は新聞記者を名乗って操縦士から航空会社の仕組みを聞き、巧妙に制服を入手。操縦士姿のフランクに道行く人が振り返る。銀行でもホテルでも、偽造小切手で怪しまれない。操縦士は提携する航空会社の飛行機に只で乗れることを知ったフランクは、自由に好きなところへ行く。偽造の手口にも長けてきた頃、遂にFBIが動き出す。熟練捜査官カール（トム・ハンクス）は、躍起になってハリウッドで犯人を追いつめ、フランクと鉢合わせする。だが、フランクはとっさに「一足先に捜査に入った」秘密捜査官と偽り、まんまとカールを撒く。捜査に行き詰ったカールは、「偽造小切手の署名が漫画の主人公であることから、犯人が子供かも」と着想。一方フランクは偶然に行った病院で、可愛い看護婦ブレンダに一目惚れ。その瞬間、彼は小児科医に変身し病院に就職してブレンダの身も心も虜にする。二人で彼女の父親に会いにルイジアナへ。彼女の父が法曹界だと知るや今度は弁護士になりすまし、そのまま彼女の父の法律事務所に転職。一方、FBI捜査官カールは家出少年の搜索リストからフランクを割り出し、ブレンダとの婚約披露宴に乗り込む。フランクはとっさに雲隠れ。二日後フランクは、空港がすでに警察に完全包囲されていると察知するが、そこでフランクは客室乗務研修生を「研修で欧羅巴を周る」と称して連れ出し、その一団の陰に隠れ、空港のFBIによる包囲網をまんまと突破する。その後、フランクは欧羅巴やエジプト各地で小切手詐欺を繰り返す。フランクの母親の母国・仏蘭西に目を着けたカールは、遂に逮捕に成功するが身柄は仏蘭西警察に拘束され、禁固12年の刑が確定する。

これで稀代の詐欺師も一巻の終わりと思いきや、卓越した小切手詐欺の知識を駆使し、詐欺師逮捕に貢献したフランクは、FBI捜査官に抜擢される。あろうことかフランクは偽造防止小切手を考案し莫大な報酬を得る。鬼ごっこでもしてるかのように「捕まえられるものなら捕まえてみよ」と余裕だった天才詐欺師フランクとFBI捜査官カールは無二の親友になったとか。

超一流の詐欺師となると犯罪防止で身を立てることも出来るという面白い作品だった。人が制服に弱いのを逆手に取って騙すのは悪い。フィッシング、振り込め詐欺には自衛策も必要だ。人の禪（ふんどし）で相撲を取るのは如何なものか。許されるのは密室のコスプレくらいかも？！



かゆ かわ ゆう へい
粥川 裕平
(精神科医・映画評論家)

名古屋工業大学 名誉教授
かゆかわクリニック院長